

# 第24回全国協議会 次第

日時：8月17日（土） 13：00～21：00

8月18日（日） 9：30～15：00

会場：東京・貸会議室「内海」

## 【議題】

- (1) 9月定期総会の議案の決定
- (2) 総会進行委員の選出
- (3) 総会運営規則の改正
  - ・定期総会における会員資格の基準日
  - ・委任状の提出期限
- (4) 総会プログラム
- (5) 9/14-15 全国協議会の時間と会場の確認
- (6) 2月総会の日程2013年9月28～29日

## 緑の党第2回提起総会議案書（案）

議案	議案名	担当	ページ	メモ
第1号	政治組織活動の総括	井奥 八木	2 5	
	1. 2013 参議院議員選挙の総括 2. 通常活動の総括			
第2号	決算報告（2012 年後半・2013 年前半）	漢人	10	別紙 当日配布：監査報告
第3号	共同代表の選出	中山	10	資料：プロフィールと推薦理由 （17～18ページ？） *運営委員の内定
第4号	全国協議会委員の選出			
第5号	監査の選出			
第6号	政治組織活動の方針	八木	11	
第7号	予算案（2013 年度後半）	漢人	13	別紙
第8号	規約改正「第33条 規約の改廃」	漢人	13	2 / 3 議決
第9号	規約改正「付則第1条」 （暫定規約としての位置づけ）	漢人	14	

## ■全国協議会委員名簿

歌野 礼／長崎県

足立力也★／福岡県

荒木龍昇／福岡県

渡辺さと子／香川県

坂田光永★／広島県

横田えつこ／岡山県

井奥雅樹★／兵庫県

松本なみほ★／兵庫県

中谷 香／大阪府

野々上 愛★／大阪府

加藤良太／京都府

小林 収／愛知県

松谷 清／静岡県

山下ふみこ／静岡県

窪田 誠／山梨県

白川真澄／神奈川県

氏家英由子／東京都

漢人あきこ★／東京都

郡山昌也★／東京都

坂田昌子★／東京都

島 昭宏／東京都

陣内直行★／東京都

中村まさ子／東京都

星川まり★／東京都

宮部彰★／東京都

村松まさみ★／東京都

木下・デヴィッド／千葉県

船橋邦子／千葉県

片山いく子／埼玉県

八木さとし★／長野県

笠原一浩★／福井県

蛇石郁子★／福島県

高橋 良／宮城県

久保あつこ／北海道

# 【1】 第2回定期総会議案書（案）

## 第1号議案 政治組織活動の総括

### 【1】2013 参議院議員選挙総括

2012年7月の設立総会以来、1年間の準備を経て取り組んだ参議院選挙では、目標に対して十分な結果は出せなかったものの、選挙戦および選挙後のマスコミ報道などを通じて、緑の党の存在を全国にアピールすることができました。今回の参院選の結果を受けて、反省すべきところは反省しつつ、得られた成果を拡大していくことが、3年後の参議院選挙の勝利につながります。

以下に、これからの緑の党発展のために反省点と成果をまとめてふりかえります。

なお、参議院選挙に至る経過で、大きな節目となった衆議院選挙、東京都知事選挙については別項にて述べます。

#### 1. 目標の最低1議席、得票率2%を達成できず

私たちは参議院選挙に挑戦し、比例区での1議席獲得とともに得票率2%を達成し、政党要件の獲得をめざしました。9人の比例区候補者、1人の兵庫選挙区候補者を擁立して取り組みましたが、全体で45万票（0.86%）と議席獲得はかないませんでした。政党票を8割（96万票）、個人票を2割（24万票）という目標でしたが、政党票（24万票）、個人票（三宅17万票+他個人票4万票）と、三宅票を除けば、いずれも大きく届かずという結果となりました。

#### 2. 3つの背景

##### 2-① 政治的背景 自民党の圧勝と共産党の伸び、山本太郎氏の当選

参議院選挙の全体的な結果としては自民党の圧勝でした。政権交代に期待した多くの市民は失望し、先の衆議院選挙と同じく棄権に回り（約670万票）、低投票率により、自民党、公明党、共産党が組織票によって躍進する結果となりました。共産党は東京都議選でも躍進し自民党の批判票の受け皿となり、民主党は二

大政党の一翼から転げ落ちるほどの凋落、維新の会、みんなの党も伸び悩みました。

こうした中、争点が経済・雇用政策となり、脱原発政策は争点からはずされました。有権者はアベノミクスに不安を抱きながらも経済の先行き不安の中、自民党を消極的に選択しました。

一方で都市部を中心に、共産党が「アベノミクス」に対抗する勢力として、また「脱原発票」の受け皿として期待を集め、東京選挙区では市民に支えられた（脱原発と脱被ばく・反TPPを掲げた）山本太郎氏が当選するといった新しい要素が生まれました。

##### 2-② 主体的背景 私たちの力量不足 会員数、地域数も少なく、担い手も少なかった

会員数（会員・サポーターで1500人弱）・地方議員数（60人弱）は選挙を行うには十分な体制ではありませんでした。数だけではなく、選挙に取り組んだ人と取り組まなかった人のギャップも大きく、会員外のボランティアを含め、選挙に関わってもらおう努力と巻き込む力が必要でした。また、選挙実務作業は東京事務局に集中するため、各地域からの支援体制などが課題として残ります。

3月には都道府県単位の「地域窓口」を設置しました。名簿の提供も含めて地域の中での交流促進をめざしました。一部は成功しましたが、役割の不明確さ、特に地域組織との役割分担が課題となりました。

事務作業の分担が不十分な中、特定の人に仕事が集中し、複数のかなり異なった役割を担うことになりました。特に他の政治勢力や市民団体・組織などとの渉外関係に課題を残しました。

また、比例区の非拘束名簿方式の中で「味方であり、ライバルである」という比例区選対のあり方は、全国が対象であるという広大な選挙区とあわせ、十分対応できませんでした。また、全国的な調整機能が十分ではなく、実務から離れた調整担当の位置を確保する必要がありました。

## 2-③ 選挙事情の背景 「みどり」名称の混乱とマスコミの「諸派」報道

政党要件のある「みどりの風」は、参院選の特集記事やテレビニュースなどの報道で政策などが紹介され、政党票は 32 万票を超えました。みどりの風（略称登録「みどり」）との名称による混乱は最後まで払拭できず、有権者に「緑の党」を十分に浸透させることができませんでした。一方、マスコミは、供託金という厚い壁を突破したにもかかわらず、緑の党を「諸派」として扱い、比例区報道では徹底して無視しました。2001 年の「みどりの会議」の立候補の際にはあった「マニフェスト紹介」の報道すらありませんでした。この二つの背景により、有権者の選択肢として「緑の党」がメディアにおいて見えない存在となりました。その結果、「緑の党」的な政党を求める有権者の投票が分散してしまい、24 万票（政党票）の得票に留まりました。

## 3. 選挙戦術上の課題

### 3-① 「予備選挙」実施と候補者擁立

「自分たちの 1 票で候補者を選ぶ」という会員の権利と、会員自身の立候補する権利を確保するため、また対外的にアピールするために予備選挙を 2 回行いました。

第 1 次予備選の投票率は 43.7%、第 2 次予備選は 52.8%でした。第 2 次予備選では 7 人が立候補し、候補者選定委員会が選挙プロモーションを行ったため、投票率は上がりましたが、いずれも投票率は低調で課題が残りました。一方で党内民主主義の確立や全国紙に取り上げられるなど一定の効果はありました。

予備選挙と直接選出という候補者の決定の二つの役割を候補者選定委員会が担いました。この負担が過重であったことも、10 人の候補者決定が 6 月 9 日臨時総会寸前まで遅れた要因の一つでした。9 人目、11 人目の候補者が福島原発事故による避難者、12 人目の候補者が三宅洋平氏であるなど、「最後まででのより良い候補者追求」が功を奏した面もありましたが、選挙準備、有権者への周知などを考えると、もっと早い時期での選出が望ましく、課題が残ります。

### 3-② 「市民が立ち上げた新しい政党」「ドイツ緑の党との連携」は評価が分かれる

「市民が立ち上げた新しい政党」というアピールは、

力の弱い「新しい政党」への期待よりも、政治的決定への影響力ある投票として共産党が選択されるという結果となりました。「脱原発を実現したドイツ緑の党との連携」は、緑の党が日本で十分に知られていないこともありましたが、その国際性は一定の評価を受けました。しかし「脱原発なら緑の党」というアピールは、国内での力不足のために信用される受け皿となりませんでした。

一方で『脱経済成長至上主義』や『スロー・スモール・シンプル』など新しい価値観を全面的に打ち出すべきであった」という指摘もあります。

知名度の低さを打開するために、選挙公報を最大限に利用する方針のもと、比例区 9 人を擁立し、選挙公報の半面分のスペースを確保しましたが、期待通りの反応は得られませんでした。その効果の検証は難しく、「選挙区で多数擁立した方が効果的」という意見もあり、選挙区での擁立効果と選挙公報スペース増の効果との兼ね合いは今後の課題です。

## 4. 選挙における成果

### 4-① 供託金を集め「緑の党」としてデビューした

多くの寄付者の協力により 8000 万円を超える選挙資金を集め、「緑の党」として国政選挙に挑戦できたことは大きな第一歩です。国会議員（元職も含めた）なしの試みとしては稀なことであり、国政政党とも対等に戦えたことは緑の党への広範な期待と選挙の担い手が存在したことを明らかにしました。

選挙後も「緑の党の今後に期待する」として参加を求める人々があり、厳しい結果ながら、今回の参議院選挙への挑戦を通じて「緑の党」として社会的にデビューした意義は大きいと言えます。

### 4-② 三宅洋平氏の「選挙フェス」の母体となった

緑の党推薦候補として比例区選挙の一翼を担った三宅洋平氏は、「選挙フェス」とネットの融合で一大ブームを巻き起こしました。17 万票の個人票獲得は、他の政党では当選ラインであり、選挙後も NHK をはじめ、テレビや新聞などマスコミに注目され報道が続いています。三宅氏は政治団体「日本アーティスト有意識者会議：NAU」の代表であり、2000 万円をネットで集め、自らの供託金 600 万円を拠出して緑の党の候補者として全国的な選挙を展開しました。三宅氏のこれまでの生き方と主張が緑の党の政策に合致していたか

らこそ「選挙フェス」の大ブレイクにつながったと言えます。

三宅氏のような新しい感覚を受け入れてデビューさせる土壌があることも緑の党の強みです。

#### 4-③ 多彩な候補者を擁立することができ、基盤が広がった

三宅氏以外にも、福島原発事故による避難者、アイヌ民族、自死遺族など当事者性をもった多彩な候補者を擁立することができました。

選挙によりネットワークや担い手が大きく広がった地域もあります。

また、政策立案を透明化し選挙公約「いのちをつむぐ緑のプロジェクト」とした成果、選挙マニュアルの整備など基本的な資料も準備することができました。政見放送も評価が高く、ネット解禁にあわせて実際の放送以外にも活用することができました。

選挙も一つの大きな運動であり、一緒に運動をして汗を流した仲間こそ信頼できて議論もより深くなります。貴重な全国選挙の経験を今後活かすことが求められます。

### 5. 三宅洋平氏との統一行動は成功 脱原発連合型選挙に課題は残す

緑の党としては、統一名簿方式の選挙も視野に最後まで調整に努力しましたが、諸状況により広い枠組みでの統一はかないませんでした。

交渉の過程で「熟議を大事にする組織」や「国際性」が評価されて、政治団体「日本アーティスト有意識者会議：NAU」の三宅洋平氏との統一行動（比例名簿に搭載）に結びつきました。

一方で、国政政党「みどりの風」との連合をすべきだった／山本太郎氏との連合をすべきだった／衆議院選挙後の早い時期での交渉をすべきだった、という指摘があります。しかし、議員中心で組織風土の違いがあり、吸収合併路線を譲らなかった「みどりの風」との連合は困難でした。山本太郎氏との連合も「緑の党」の名称を含む統一名簿方式での合意ができませんでした。

国際的ネットワークを持つ「緑の党」としての参院選挑戦を掲げて準備を重ね、賛同者や選挙資金を集めてきたことと、一方で市民の多くが「脱原発政治勢力の連合」を求めていたことから、最後の結論は臨時総会を開催して決定しましたが、会員への交渉過程の情報公開のあり方など課題は残りました。

### 6. 反省すべきところは反省しつつ、今からが「緑の党」の勝負

さまざまな障害を乗り越えて 45 万票を獲得し三宅洋平氏による「選挙フェス」ブームを巻き起こした緑の党は、2013 年参議院選挙を通じて次の飛躍に向けた基盤を構築できたと考えます。

選挙における 3 つの成果を拡大し、地域基盤のぜい弱さをはじめとする主体的力量や選挙戦術上の問題点を改善し、2015 年の統一自治体選挙や 3 年後 6 年後の参議院選挙にも「緑の党」として挑戦し続けることが必要です。

その手法として、今回の事実上の単独挑戦以外にも、結成総会での議決で示した「統一名簿方式」などさまざまな可能性も追求していくことが求められます。

## ○補論：2012 衆議院議員選挙・東京都知事選挙に関する総括

参議院選挙に至る経緯で、大きな節目となった衆議院選挙、東京都知事選挙についてその意義などを述べます。

#### (1) 「脱原発連合」による衆議院東京比例区ブロックへの挑戦及び単独挑戦の断念

緑の党は結成以来、2013 参議院選挙への挑戦と時期未定の衆議院選挙への準備を行ってきました。

衆議院選挙については知識人や幅広い市民団体と連

携し、「脱原発連合」型選挙の東京比例ブロックでの実現をめざしました。

著名人を中心にした立候補の要請や団体間での話し合いを行っていましたが、十分な準備が整わない段階で解散総選挙を迎えることとなり、断念を余儀なくされました。「緑の党」単独挑戦も一部に議論されましたが、当選可能性がない中で「本命」たる 2013 参議院選挙への悪影響を考えて断念しました。

一方で、候補者としての交渉相手のひとりであった

山本太郎氏が、無所属ながら杉並区からの立候補を決意。緑の党が高円寺の党事務所を選対事務所として提供するなど全面的に支援しました。この選挙で「太郎フェス」と銘打った音楽と演説を融合した街頭演説スタイルが生まれ、参院選の「選挙フェス」につながりました。そして、その中心を担った三宅洋平氏が緑の党から参院選に立候補を決意する基盤となりました。山本氏は7万票を超える得票で民主党、共産党など既成政党をおしのけて次点となりました。

また、東京比例ブロックでは断念した「幅広い脱原発勢力のブロック」は、東京都知事選挙で、共産党から未来の党および市民団体までの幅広い枠組みとして実現しました。当選にはいたらなかったものの、100万票近い得票を得ました。

緑の党は東京メンバーを中心にそれぞれの選対を担いました。いずれも善戦にとどまりましたが、その後の山本太郎氏や東京での共産党の躍進にもつながり、政治情勢に貢献しました。

## (2) 衆議院選挙の全体情勢 「未来の党」の失敗、民主党の大敗 自民党復調

解散後、公示直前に嘉田滋賀県知事や飯田哲也氏の主導で「未来の党」が結成され、「脱原発連合」的政党として期待を集めました。失速して大敗しました。もともとの地域基盤のなさ、小沢系とそれ以外の確執などが比例順位で明らかになるなどで国民に失望感が広がりました。

緑の党は未来の党候補などへの幅広い推薦に取り組みましたが、阿部知子氏以外は当選せず、大敗による徒労感が広がり、「あいまいな連合」への嫌悪感が先行しました。

衆議院選挙全体では、未来の党以外にも民主党が大敗し、維新の会やみんなの党も想定されたよりは伸び悩む中、自民党が全体の票は伸びなかったものの本来の地盤を活かして復調しました。この自民党復調の流れはさらに加速して参議院選挙につながりました。

## 【2】組織活動の総括

参議院選挙対策本部メンバーの大半は運営委員であることなど、この1年間の組織活動は、2013年参議院選挙にむけた準備活動と一体でした。参議院選挙に初挑戦したことで緑の党の存在をアピールでき、また三宅洋平氏・山本太郎氏をはじめ、全国各地で新たな「つながり」や「成果」を生み出すことができました。一方で、知名度の低さ、組織基盤のせい弱さなど課題が浮き彫りになりました。厳しい状況での再スタートとなりますが、参議院選挙の経験・成果を活かし、また組織の総点検を行い、戦略的、着実に動き出すことが大切です。

### 1. 組織運営

#### 1-① 全国協議会

- ・候補者決定および選挙方針に係る重要な決定のため必要に応じて開催（全26回）
- ・スカイプの活用で全国メンバーによる柔軟な会議対応が可能となったが通信状態の安定確保が課題
- ・総会に準ずる議決機関としての正式な会議録作成が必要であったが、候補者選定、対外政治交渉に関する議題の公開性の制限などもあり、作成に時間を要

した。

- ・会議録を待たずに概要報告を「会員内部連絡メール」で配信した。
- ・より詳細、迅速な報告を求める意見もあり、課題である。

#### 1-② 運営委員会

- ・月2回を基本とし、2013年4月以降は選対本部会議に一本化し、必要に応じて開催した（全33回…予定）。
- ・スカイプの活用で全国メンバーによる会議を行ったが通信状態の安定確保が課題。
- ・組織、政策、広報、国際などの担当を置いた。各担当責任による迅速な対応が求められる。
- ・開催のお知らせと概要報告を「会員内部連絡メール」で配信した。

#### 1-③ 事務局

- ・有給スタッフを常勤3名+パート1名から最大常勤4名+パート2名程度に増員。無給スタッフ、ボランティアを拡充した。選挙中のボランティアの組織化が十分ではなかった。

## 2. 財政

2012年7月の結成総会での財政方針（予算）を踏まえ、2013年の全国協議会での修正を経て、以下の総括とします。

### 2-① 収入の部

#### ●全国協議会で予算を修正

2012年末のカンパ目標は、3000万円でしたが、達成されたのは2120万円。2012年末は会員800名とサポーター300名で、会員2000名への拡大は実現が厳しい状況でした。したがって収入が厳しいと判断し、1月の全国協議会で収入を9600万円から8120万円に1480万円下方修正した予算を確認、また借金を800万円ほど想定しました。

#### ●結果

- ・1億円カンパは総計で6500万円を想定し、結果は6468万円。非会員からのカンパは906万円。
- ・当選債券は1500万円を想定、最終的に1530万+385万=1915万円。議席獲得を実現できなかったので寄付として処理。
- ・新聞債権を600万円、得票率1%を超えなかったので寄付として処理。
- ・借入金は1030万円。
- ・会費収入は7月末時点で、会員674名、サポーター482名で818万円、1020万円を下回った。納入率は74.3%。年末までに未納の会員284名、サポーター116名が収めると、318万円の会費収入となる。

### 2-② 支出の部

- ・供託金5700万円（比例区9人としたため供託金の総額は結成時より600万円増加）。
- ・選挙運動費用は2000万円の予算で、結果は……万円。新聞広告は300万円。
- ・通常の政治組織活動費として1405万円、結果は……万円。
- ・新聞広告を追加で300万円支出したが、1%に届かなかったので借入金は当初予定の800万円より多くなり1030万円となった。

## 3. 会員・組織

### 3-① 会員と「2013参院選、緑の党を国会へ」賛同者の拡大

- ・7月末で会員は約958名、サポーターは約598名。総計で1556名。
- ・年末までに2000名の目標には、あと444名、月あたり89名となる。
- ・賛同者は結成時点の1000名から7月末で約2400名。目標の3000名には届かなかった。
- ・会員証（またはバッジ）などの発行は実現できなかった。

### 3-② 地域組織

- ・選挙を前にした各地での活発な活動を反映して23組織を地域組織として確認
- ・地域組織の連絡協議会を開催し、メーリングリストを作成
- ・地域組織は大きさや活動内容もさまざまであり、緑の党会員のみで組織される場合と会員外も含めて組織化されている場合がある。その多様性が「緑の党」らしいといえるが、今後の緑の党全国組織との関係をどのようにしていくのが課題である。

### 3-③ 会員ML

- ・熟議MLを廃止し会員MLを一本化したが、流量の多さ、投稿者の偏りなど課題が多い。
- ・ブロックごとのML立ち上げには至らず、ML以外のコミュニケーション・ツールの導入を検討したが困難であった。

## 4. 政策・政治アピール

原発問題や「領土」問題などをはじめ、さまざまな政治的課題で緑の視点からの声明や見解を公表しました。昨年結成後の8月から本年7月まで27本（月平均約2.3本）でしたが、頻度はバラツキがあり、より迅速な対応、書き手の補強・育成などが課題となりました。

## 5. 広報・宣伝

### 5-① ニュースレター

会員拡大版（フルカラー）1、3、6、8、10号（8、10号は選挙前全戸配布用）、会員版（モノクロ）2、4、5、7、9号をほぼ交互に毎月発行しました。拡大版は脱原発関係を主に各地のイベント・行動等で積極的に配布しました。

## 5-② 刊行物・宣伝グッズ

- ・ガイドブック「緑の党キックオフ」、リーフレット、のぼり、マグネットシート、缶バッジ、手ぬぐい、シールを作成・販売

## 5-③ インターネット活用

- ・ホームページを 2012 年 8 月リニューアル、4 月に「参院選候補者一覧」の追加など一部修正。
- ・連携組織として会員の自主的な発議により「ICT チーム」が発足、IT 関係のさまざまなアドバイス、立案や実施を担った。
- ・参院選候補者 HP については ICT チームの協力の上、ランディングページの共通サーバーやセキュリティの導入を行った。共通メルマガ申し込みフォームや一部の候補者 HP の作成も依頼。
- ・Face book を充実。ツイッター専用アドレスを取得。
- ・映像発信にも力を入れて Ustream, youtube を活用してイベントのリアルタイム発信や参院選期間中も中継なども行った。
- ・一部の候補者をのぞき、参院選期間中に個人も自由に発信できるネット解禁に対応した十分な活用ができたといい、難く、専門スタッフの充実・ボランティアの育成など課題が残った。

## 5-④ 広報

マスコミ報道に関しては、年間 40 本以上のプレスリリースを行いました。その成果もあり、昨年 7 月の緑の党結成総会を国内外の多数のメディアが報道。また、今年 7 月の参院選は、「諸派扱い」のため期間中はマスコミに無視されるも、選挙後に「選挙フェス」で 17 万票を獲得した三宅洋平氏を中心に、NHK や朝日新聞などの主要メディアが社説や一面での報道を獲得しました。全国キャラバンは、訪れた各地の地方紙が予想以上に取り上げてくれました。

## 6. 選挙

### 6-① 自治体議員（首長）選挙

- ・この 1 年間に衆議院選挙、参議院選挙があり、国政選挙中心の 1 年であったことから、各自治体議員選挙の応援態勢が充分でなかった。
- ・参議院選挙の結果からも、自治体議員を増やしていく地道な努力が今後の緑の党の発展には欠かせない。
- ・2015 年統一地方選挙に向けて、候補者の擁立、選

挙スクールなど早いうちから準備することが求められる。

### 6-② 東京都議選

都議会議員選挙（6/23 投開票）に、緑の党は杉原浩司さんを公認候補として中野選挙区から擁立した。緑の党として、政党選択選挙的色彩の強い都議選への初挑戦は、7 月の参議院選挙の試金石となるものであった。結果は 3,224 票で落選。得票率にすると 2.9%。参議院選挙に向けての課題と可能性が明らかになった。

## 7. キャンペーン・イベント

### 7-① 脱原発運動

- ・1 年間、様々な脱原発に関する声明・見解の発信を行った。
- ・「原発ゼロはいますぐ可能だ」チラシとウェブ版「緑の党エネルギーシフトプラン」を作成。
- ・官邸前抗議をはじめ、大きな集会・デモにおいてチラシ配布やのぼりなどを掲げて「緑の党」として参加した。ただ、脱原発運動において、緑の党としての独自の取り組みがほとんど出来ておらず、存在感はまだ希薄である。
- ・再稼働反対運動や「福島原発震災情報連絡センター」などの取り組みにおいて、脱原発担当や共同代表などがアクションや共同行動のコーディネーター、現場での非暴力直接行動などの面で重要な役割を担った。ただ、それらが「緑の党」の認知にストレートには結びついていない。
- ・他団体とは共同行動における一定の連携は出来たが、政策的連携や選挙における協力は不十分だった。都議選、参院選で応援に入ってくれた団体、個人はごく一部に留まった。
- ・当初「原発即時ゼロ」を掲げていたのは緑の党だけだったが、世論の高まりを受けて、社民党、共産党が「即時ゼロ」へ転換。今後、政策的な独自性をどのように発信できるか。脱被ばく、住民・国民投票問題についての打ち出し方、脱原発基本法についての態度などが課題となる。

### 7-② 原発ゼロ全国キャラバン

- ・5 月 7 日～26 日北ルートと南ルートで実施した。主に地域組織が主体となり、市民団体の協力を仰ぎつつ「原発施設、電力会社、都道府県庁や自治体」への申し入れや街頭宣伝を行った。50 万円の予算

で行ない、以下のような成果があり、成功といえる。

- 1) 地域組織が主体的に動き、ユニークなイベントを立案・実施（著名人講演、福島被災地訪問、ゼロノミクマとの申し入れなど）し、地域組織間の交流も行えたこと
- 2) 選挙直前にもかかわらず、申し入れについて「緑の党」の活動として地元各紙・TV局でとりあげられたこと
- 3) キャラバン報告の Facebook ページが好評であり、最大1万7000人以上もの閲覧者があった（福島下水汚泥の保管報告の記事）こと

## 8. 国際

参院選での議席獲得に向けて、ドイツ緑の党をはじめとする世界の緑の党との連携を活かして活動しました。具体的には、2012年11月のドイツ緑の党大会に3名が招待され、連携を強化しました。参院選前の4月には、ドイツ・ベル財団の評議委員長シュレーヤー氏が来日して京都と伊勢で国際シンポジウムを開催。6月にはドイツ参議院議長で緑の党の初の州首相でもあるクレッチュマン氏や連邦議会会派副代表のヘーン議員が来日し、その連携をアピールしました。

### <参考資料>

#### ●声明・見解・論説・時事コメント

2012年

- 7/29【緊急声明】原子力規制委員会の最悪人事案の白紙撤回を求めます／緑の党
- 8/12【見解】水俣病特別措置法／運営委員会
- 8/24【談話】竹島・尖閣諸島問題は「奪い合い」から「共に保全」へ／共同代表 中山均
- 9/4【見解】原子力損害賠償法の改正先送りを受けて／運営委員会
- 9/6【緊急声明】緑の党はACTA否決を強く求める／運営委員会
- 9/6【声明】経済産業大臣の「エネルギー・環境戦略」資料に騙されない／運営委員会
- 9/11【声明】政府はオスプレイ配置や更なる基地建設をやめよ／運営委員会
- 9/15【談話】原発ゼロは「2030年代」ではなく、今すぐに！／共同代表 長谷川羽衣子
- 9/20【談話】法と民主主義を無視した原子力規制委員会の発足は無効です／共同代表
- 10/22【論説】新自由主義経済を主導してきたIMF・世銀体制こそ貧困と環境破壊の元凶／運営委員会
- 10/26【総選挙・参院選へ】市民発・緑の党が選択する 私たちの未来／運営委員会
- 10/30【見解】政府と青森県は、危険な大間原発と六ヶ所再処理工場廃止の決断を／運営委員会
- 11/9【談話】破砕帯調査を受けて-大飯原発3・4号の即時運転停止を／共同代表
- 11/9【見解】特例公債法を政争の具にせず、ただちに地方交付税など必要予算の執行を／運営委員会
- 11/13【見解】貸金業法の再改悪を許さない／運営委員会
- 11/16【談話】市民不在の「政局」解散／共同代表
- 11/25【声明】脱原発を促進する総選挙へ／緑の党
- 12/20【見解】総選挙結果を受けて-市民自身の手で政治を切り拓こう／運営委員会

2013年

- 1/25【論説】アベノミクスは人びとの生活を破壊する／運営委員会
- 2/5【声明】安倍政権の原発推進は危険な斜陽産業への無駄な投資／運営委員会
- 2/13【談話】北朝鮮による核実験に強く抗議します／共同代表 中山均
- 3/1【談話】2012年度補正予算成立を受けて 一熟議なき「人よりコンクリート」／共同代表 中山均
- 3/8【声明】原発震災から2年-福島を忘れず、一日も早い全原発の閉鎖を／運営委員会
- 3/29【談話】「1票の格差」問題／共同代表 中山均
- 4/6【声明】7月参院選は歴史的岐点。不退転の決意で、緑の党の議席をかちとろう／全国協議会
- 5/18【共同代表コメント】政治を市民の手に取り戻すために／緑の党・共同代表
- 5/20【談話】橋下市長に対して「慰安婦」肯定発言の謝罪、撤回と公職を辞すことを求める／緑の党・共同代表
- 5/20【見解】「96条」改憲手続き制限緩和と自民党憲法素案に反対します／運営委員会
- 5/23【声明】気候変動に対する早急でグローバルな対策の強化を／運営委員会



- 5/25 【談話】 東京都ではじめての住民投票 脱おまかせ民主主義へ貴重な一歩／共同代表 すぐろ奈緒
- 6/ 4 【談話】 選択的夫婦別姓の導入を 一少数者の人権が民主主義の試金石／共同代表 長谷川ういこ
- 6/12 【見解】 持続不能なアベノミクスにNO！ エコでフェアな経済にYES！／運営委員会
- 6/14 【共同代表コメント】 緑の政治の前進にむけて／共同代表
- 6/26 【談話】 東京都議会議員選挙の結果を受け止め、全力で参院選へ／共同代表すぐろ奈緒
- 6/25 【声明】 ストップ・原発輸出！／運営委員会
- 7/ 1 【緊急声明】 参院選比例区7/14 【緊急声明】 報道における「政党」の取り扱いについて
- 7/16 【声明】 参院選の投票で原発再稼働反対の意志を表明しよう／運営委員会
- 7/22 【談話】 参議院選挙の結果を受けて／共同代表
- 8/ 9 【見解】 内閣法制局長官人事の撤回を一集团的自衛権の行使ではなく～／運営委員会

## ●緑の党の関係する議員・首長選挙 結果一覧

2012年

- 10/21 大阪泉南市議選 小山広明さん（現職6期／会員／推薦）当選
- 12/16 東京都知事選 宇都宮健児さん（新人／非会員／支持）落選
- 12/16 福井県議選・補選（福井市選挙区）木下健一郎さん（新人／会員／推薦）落選

2013年

- 1/27 大阪府茨木市議選 桂むつこさん（現職4期／サポーター／推薦）当選
- 1/27 大阪府茨木市議選 小林みちここさん（現職2期／サポーター／推薦）当選
- 2/ 3 東京都西東京市議・補選 山口あずささん（新人／非会員／推薦）落選
- 2/24 大分県大分市議選 神田京子さん（新人／会員／推薦）落選
- 3/24 静岡県静岡市議選 松谷清さん（現職2期／会員／公認）当選
- 3/24 東京都小金井市議選 片山かおるさん（現職1期／会員／応援）当選
- 3/24 東京都小金井市議選 坂井えつこさん（新人／会員／応援）落選
- 4/14 長崎県上五島町議選 歌野あやさん（現職1期／会員／推薦）落選
- 4/21 静岡県伊豆の国市議選 谷壮一さん（元職／会員／推薦）落選
- 6/16 兵庫県尼崎市議選 酒井一さん（現職4期／会員／推薦）当選
- 6/16 兵庫県尼崎市議選 田中じゅんじさん（現職1期／会員／推薦）当選
- 6/23 東京都議選 杉原浩司さん（新人／会員／公認）落選
- 7/21 長野県高森町議選 中川賢俊さん（新人／会員／応援）当選

## ●国際

2012年

- 3月：第3回グローバルグリーンズ会議（緑の党世界大会）@セネガルに参加
- 6月：リオ+20地球サミット@ブラジルに参加  
ブラジル緑の党主催の「グローバルグリーンズ会議」@リオに参加
- 11月：第34回ドイツ緑の党大会@ハノーバーに参加
- 12月：フランス緑の党パスカル・デュラン書記長来日

2013年

- 2月：ドイツ緑の党ミュンヘン支部長来日
- 2月：NRW州 気候・環境・農業・自然・消費者保護大臣ヨハネス・レンメル氏ら来日
- 3月：「3.11から2年ーアジア太平洋の緑の党（APGN）共同記者会見」開催
- 3月：「移民統合・家族・子ども・青少年・女性担当省」女性の副大臣（緑の党）マルギット・ゴットシュタイン氏ら来日
- 4月：国際シンポ「希望は“緑”ーなぜドイツは脱原発を選択できたか」開催（ハインリッヒ・ベル財団から元

欧州委員会評議委員長来日。

5月：ドイツ緑の党連邦議会議員、会派副代表ベアベル・ヘーン氏来日

6月：ドイツ連邦参議院議長、BW州首相（緑の党）クレッチュマン氏来日

## 第2号議案 決算報告 . . . 別紙

## 第3号議案 共同代表の選出 第4号議案 全国協議会委員の選出

### (提案説明)

全国協議会は、今回の総会が参議院選挙直後であり、厳しい結果に対する責任の政治的な表現が必要であるという共通認識に立ちます。しかしそれを特定の役職のメンバーの「辞任・退任」を強調する人事案によって表現すべきかについては、全国協議会の中、あるいは会員内でも議論が分かれています。

全国協議会は「辞任・退任」論で認識を一致するものではないし、中枢メンバーの尽力・努力は他に代え難いものだったと理解しますが、いずれにせよ、特定の個人に業務や責任が集中し、またその役割が固定化すること、他のメンバーが特定の個人の努力に依存してしまうことは、個人にとっても組織全体にとっても望ましいことではなく、そうした組織活動の実態が、結果的に「辞任・退任」を求める声を生む背景にあると認識します。

参議院選挙の敗北や内部からの批判を受けていることを、こうした組織実態のあり方を改善する契機ととらえる必要があります。また、発足後1年を経て、一定の人事の一新を行うことで、より多くのメンバーが実務や経験の継承や共有化を図ることも重要です。

そこで、9月総会から2月総会にかけて、全国協議会・運営委員会、共同代表などのメンバーやその役職の一新を図りたいと考えています。

総会の議案は「全国協議会委員の選出」ですが、上記のような事情に鑑み、運営委員会の一部および正副運営委員長の候補案も説明資料として併せて提案します。

### ■第3号議案：共同代表の選出

須黒奈緒 長谷川羽衣子  
中山均 \*\*\*\* (全国協議会で議論)

#### (補足説明)

2月総会に向け、緑の党の理念を共有する党内外のメンバーも含め、一定数の新任（現代表との交代）をめざす方向で検討します。

### ■第4号議案 全国協議会委員の選出

久保 あつこ	北海道	北海道
高橋 良	東北	宮城県
蛇石 郁子	東北	福島県
八木 聡	北信越	長野県
笠原 一浩	北信越	福井県
片山 いく子	関東	埼玉県
川野 孝章	関東	東京都
重松 朋宏	関東	東京都
杉原 浩司	関東	東京都
酒村 菜緒	関東	東京都
中村 まさ子	関東	東京都
漢人 明子	関東	東京都
郡山 昌也	関東	東京都
宮部 彰	関東	東京都
松谷 清	東海	静岡県
尾形 慶子	東海	愛知県
松尾 京子	近畿	大阪府
四谷 薫	近畿	兵庫県
井奥 雅樹	近畿	兵庫県
松本 なみほ	近畿	兵庫県
丸尾 牧	近畿	兵庫県
横田 えつこ	中四国	岡山県
渡辺 さとこ	中四国	香川県
足立 力也	九州	福岡県
歌野 礼	九州	長崎県
野口 英一郎	九州	鹿児島県

(以上26名 うち女性13名 ただし追加で男女1名ずつ追加検討し本人意思確認中)

上記含め、地域事情等により変更・追加の必要性についても全国協議会で議論する。

全国協議会での議論・決定の後、プロフィールや推薦理由などを文書で整理する。

議案4号の説明資料：運営委員会構成メンバーの案  
(役割・責任分担体制は全国協議会当日提案)

<正副運営委員長候補>

八木 聡 (運営委員長)  
郡山 昌也 (副運営委員長)  
野々上 愛 (副運営委員長)  
横田 えつこ (副運営委員長)  
漢人 明子 (副運営委員長)

<運営委員候補>

杉原 浩司  
松尾 京子  
井奥 雅樹

足立 力也  
松谷 清  
蛇石 郁子  
宮部 彰  
笠原 一浩

全国協議会でさらに必要なメンバーについて追加を検討する。

なお、運営委の人選については反対意見があり、全国協議会において報告・説明の上議論することとなった。全国協議会・運営委の活動をサポートするスタッフ・オブザーバについて、共同代表・運営委の任務分担と併せて別途選任したい(当日提案)。

## 第5号議案 監査の選出

## 第6号議案 政治組織活動の方針

### 1. 組織運営

#### 1-① 組織の見直し

組織基盤を強化するために、現在の暫定規約を本規約に改定します。規則(ルール)づくりや主な変更について、2014年2月の定期総会にむけて提案の準備をすます。

##### (1) 全国と地域の間係を再検討

現在の暫定規約では支部の位置づけがありません。組織拡大を図るには、地域組織のあり方、自治体議員の位置づけ、会費、意思決定の方法を再検討する必要があります。地域単位のブロック制の導入も検討します。

##### (2) 各機関の見直し

共同代表、全国協議会、運営委員会のあり方(人数、任期、選出の方法、権限)を見直し、機能的な組織体制を再構築します。

##### (3) 各種規則(ルール)づくり

会議の非公開を含めた情報公開のルール、議事録のあり方、会員の意見集約の方法など再検討を行います。

#### 1-② 事務局体制の再構築

負債を抱えての再スタートとなるため、少ないスタ

ッフで組織を運営せざるを得ません。今まで以上に、役員、会員の協力が必要です。

インターンや専門技術を持つボランティア(プロボノ)のネットによる募集も検討します。

### 2. 財政

#### 2-① 2013年8~12月・収入の部

未納会費と新規会員・サポーターの参加により会費収入を440万円、期末カンパを300万円、新聞広告債券500万円の借入れなどにより、1550万円の収入を見込みます。

#### 2-② 2013年8~12月・支出の部

選挙態勢からの再スタートへの移行期間であるため、事務所費、人件費などで調整的な支出が発生しますが、経常的な経費が中心です。事業的には拡大版ニュースレター1回の発行費を計上しました。

#### 2-③ 活動別寄付の検討

#### 2-④ 城南信用金庫などでの口座開設

### 3. 会員・組織

#### 3-① 会員・サポーター、支援者、地域組織の拡大

2013年12月までに新たな会員・サポーター各100

人の入会、新たな地域組織●つの登録を目標とします。

### 3-② 会員ML

全国規模の会員MLは廃止します。

## 4. 政策・政治アピール

### 4-① シンクタンク（もしくは調査部）設立

政治団体のいのちは、政策立案能力、調査能力です。緑の党は結成1年であり、社会貢献度、実績が不足しており、反自民・脱原発を求める有権者から信頼されず、批判の受け皿になれませんでした。政策立案能力・調査能力を高め、生み出された成果を発信することにより、同じ志を持つ有権者から信頼される、社会により役に立つ組織となることが重要です。

- ・責任者を決定、準備チーム発足、あり方を検討する。
- ・各分野の責任者を決定する。
- ・201●年□月スタートする。
- ・FB、ツイッター、動画、HPで発信し、党の支援者を増やし、ネット上で関係を維持する。

## 5. 渉外

### 5-① 志を同じくする個人・団体との関係

市民団体や他党、個人との協力・連携不足が2013参議院選挙で明らかになりました。3年後にむけて志を同じくする個人・団体とのより深い信頼・協力関係を構築します。具体的には、担当を決めて、責任をもって進めます。

- ①山本太郎氏や阿部知子氏などの現職国会議員
- ②三宅洋平氏との選挙フェスや統一自治体選挙などの連携
- ③めざすべき社会像が同じ議員経験者など。特に次期緑の党の候補者になってもらえそうな人。
- ④市民運動との運動の連携。 など

## 6. 広報・宣伝

### 6-① ニュースレター

年6回発行、内4回を拡大版として発行することとし、年内には拡大版を1回発行します。

### 6-② メルマガ

現在の内容は組織内部に関する事項が多いですが、例えば脱原発に関心ある人が興味を持つような、社会

的に役立つ情報発信が必要です。自治体議員向け、分野別などに分けた発行や動画メルマガの発行を検討します。

目標メルマガ登録 3000人（2014.2月までに）

### 6-③ ロゴ、キャラクター

2014年2月までに、ロゴ、キャラクター候補を公募し、ハガキ投票で決定します。

### 6-④ IT関係の研究・実践

2013参議院選挙は、ネットが解禁された初めての国政選挙でしたが、影響はかなり限定的との評価が一般的です。その一方で三宅洋平氏などは、ネットの影響を最大限活かした新しい選挙スタイルを構築しました。絶え間ない技術革新の研究を常に怠らず、安価で効果をあげる姿勢が問われます。

3年後に挑戦するときにも、緑の党は「諸派」扱いされることを想定し、マスコミに全面依存しない、支援者と党を結ぶ媒体としてのネットの活用は有効です。具体的には、FB公式ページ、ツイッター、メルマガの購読者（フォロワー）を増やすことです。ネットでの情報配信や現実社会で個々人との関係を増やし、ネットでその関係を維持、蓄積していくことが戦力の柱の一つです。

(1) ICTチームとの連携、協力

(2) (仮)めざせフォロワー110万人「ツイッターマラソン」

「250万枚ヒマワリアクション」のように、HP上で会員・サポーター・支援者の中から参加者を募り、登録者全員の合計で3年間かけて110万人のフォロワー獲得をめざします。

## 7. 2015年統一自治体選挙

選挙を通じて、組織基盤の脆弱さを再認識しました。これから3年間で特に地方の基盤強化、知名度の向上が求められます。その一番の柱は、2015年の統一自治体選挙、それ以外にも行われる地方自治体議員・首長選挙です。同じような運動との連携を模索しながら党公認、推薦候補を当選させるよう全力を挙げます。公認候補者50名（改選組を含む）、推薦候補者100名擁立。

### 7-① 簡単なタイムスケジュール

○2013年9月臨時総会まで

- ・党担当者・チームの決定
- 2014年2月定期総会まで
  - ・立候補者募集、声かけ
  - ・選挙スクール準備
- 2014年2～3月
  - ・選挙スクール開講
- 2014年4月から2016年4月まで準備

### 7-② 協力・合同の模索

緑の党で準備を進めるとともに、三宅洋平氏、山本太郎氏など、同じ志をもつ個人・団体と統一地方選挙にむけた運動と協力・合同できないか模索します。

### 7-③ 現職自治体議員へのサポート

選挙で党公認候補を増やしていくだけでなく、現職議員が緑の党に関わっているメリットを増やすべきです。具体的には、研修会やメルマガ発行、ML開設などによる、仕事（調査）に関する良質な情報の提供です。自治体議員政策情報センター「虹とみどり」との関係性を考慮する必要があります。

## 8. 各種キャンペーンの発足

知名度を上げるためには、社会的に分かりやすい切り口で訴える必要があります。運営委員、全国協議会委員の人手では限界があるために、会員有志による自発的行動を期待します。党としては、担当を配置、必要に応じて資金提供をするなど、積極的に応援します。

## 第7号議案 予算案

・・・別紙

## 第8号議案 規約改正「第33条 規約の改廃」

### <提案理由>

官公庁の手続きに際して、規約上の事務所住所の記載が求められることがあり、この改正により、規約に最新の事務所住所を反映できることとなります。

### <現規約>

第33条 この規約は、総会の出席者の3分の2以上の決議をもって制定し、改正し、または廃止することができます。

### 8-① 供託金裁判

重要な課題として取り組む。

### 8-② ポスター大作戦

今回の選挙でポスターの有効性が再認識できました。政党ポスターを早急に制作し今回の選挙で確保した場所に掲示し（成果の活用）、3年間で掲示箇所を増やします。デザインの公募を検討します。

### 8-③ 脱原発運動

当面は再稼働阻止と「原発事故子ども被災者支援法」の実施に全力を尽くすことが重要です。中期的には、再生可能エネルギーへの転換による雇用創出プランを作成します。高レベル放射性廃棄物の最終管理について、グローバル・グリーンズを活かした国際的な議論の枠組みを作ります。各国の緑の党との連携を活かした、原発輸出反対や東アジアの脱原発ビジョン作りなどが重要な課題となります。

## 9. 世界の緑の党との連携

2014年3月には、フィリピンで「アジア太平洋緑の党ネットワーク（APGN）」の第3回大会が開催されます。この会議に、三宅洋平氏をはじめ、今後の政治活動で連携できる可能性がある関係者も一緒に参加して、アジア太平洋地域での緑の党ネットワークを活かした脱原発や反TPP運動に貢献します。大会ツアーを企画して、会員や自治体議会をめぐす候補者などの参加を実現します。

### <改正案> \*アンダーライン部分を追加

第33条 この規約は、総会の出席者の3分の2以上の決議をもって制定し、改正し、または廃止することができます。ただし、第5条については全国協議会の議決を以ってこれに代えることができます。

## 第9号議案 規約改正 付則第二条(暫定規約としての位置づけ)

### <提案理由>

7月参議院選挙で政党要件の獲得ができなかったため

政党要件の獲得後には、総会を開催して支部などの要素を含んだ規約に改正するものとします。

### <現規約>

第二条 この規約は、2013年7月に実施予定の参議院議員選挙でこの政党所属の国会議員が誕生して、この政党が政党要件を獲得するまでの暫定的な規約です。

### <改正案> \*アンダーライン部分を変更

第二条 この規約は、2014年2月に開催予定の定期総会までの暫定的な規約であり、定期総会において支部などの要素を含んだ規約に改正するものとします。

## 【2】 総会進行委員の選出

## 【3】 総会運営規則の改正

### 総会運営規則(成立要件・委任) 第3条

<現規則> 第3条 1 総会の成立要件は暫定規約第13条の1項によります。

2 総会に参加できない会員は、委任状(様式1もしくは様式2)または書面議決書(様式3)を総会開催日の7日前までに提出することができます。

<改正案> 第3条 1 総会の成立要件は暫定規約第13条の1項によります。ただし、総会の成立要件となり、議決権を有する会員は、総会開催の30日前に会員資格を有するものとします。

2 総会に参加できない会員は、委任状(様式1もしくは様式2)または書面議決書(様式3)を総会開催日の7日前までに提出することができます。ただし、議長への委任状(様式1)については、議案の採決を行う前の議長の指定する時刻まで提出することができます。

## 【4】 総会プログラム

<たたき台> 会場：9/28 連合会館 300名、9/29 YMCA アジア青少年センター250名 両日 9:00～21:00

9/28 (土)	9:00	集合	会場設営、受付準備
	10:00～12:00	全国協議会	最終調整
	13:00～	総会受付	
	13:30～14:00	開会セレモニー(あいさつ等)	総会進行委員選出
	14:00～18:00	議案(1、2)の提案、説明、質疑、採決	修正案の扱い含む
	19:00～20:30	議案(3～7)の提案、説明、質疑	修正案・立候補の扱い含む
	20:30～21:00	撤収	
9/29 (日)	9:00	集合	会場設営、受付準備
	9:30～	総会受付	
	10:00～12:00	議案(3～7)の続き、採決	修正案・立候補の扱い含む
	13:00～14:00	議案(8、9)の説明、質疑、採決	修正案の扱い含む
	14:00～15:00	閉会セレモニー	三宅氏、山本氏との調整
	15:30～17:00	全国協議会	運営委員の互選、他
	～21:00	撤収	延長は可能

## 【5】 9/14-15 全国協議会の時間と会場の確認

## 【6】 2月総会の日程